Letters to the editor

日本消化器外科学会雑誌　第30巻7号　1761頁—1765頁　1997年掲載

渡辺　　章ほか論文
「脳転移を来たした胃原発扁平上皮癌の1例」について

九州大学生体防御医学研究所外科
森　　正樹

渡辺氏らの胃の原発性扁平上皮癌に関する症例報告[1]を大変興味深く拝読しました．以下の3点について著者にお尋ねしたいと思います．

1）胃の扁平上皮癌の多くは詳細に調べると腺扁平上皮癌であると考えています．我々は1963年から1983年に九州大学で検索した5,000例の原発性胃癌の病理診断報告書を調べたところ，腺扁平上皮癌は16例，扁平上皮癌は4例認められました．扁平上皮癌とされた症例が真の扁平上皮癌で腺癌部分が全く認められないのかを調べるため，この4例のうち切除標本の再検索が可能であった3例について4mm幅の段階状全割切片を作製し，著者らと同様の方法で再検索しました[2]．その結果，3例とも癌病巣のわずかの範囲ではありますが，明かな腺癌成分を認めました．3例とも食道胃接合部よりは明らかに離れており，また，癌巣周囲には異所性扁平上皮は認めませんでした．これらの事は従来，扁平上皮癌と診断していたものが検索する切片数を増やして詳細に調べれば腺扁平上皮癌と診断されるべきものであることを示していると思います．

また，我々は腺扁平上皮癌あるいは扁平上皮癌の発生については腺癌の扁平上皮化生と考えています．それは①我々が再鏡検して調べた976例の進行胃癌の中には9例(0.9%)の腺扁平上皮癌があったが，1,023例の早期胃癌(これらはすべて4mm幅の階段状全割切片にて調べられた)の中には腺扁平上皮癌がみられなかったこと(この1,999例中には扁平上皮癌は進行，早期に関わらずみられなかった)，②胃腺癌のbiological behaviorは分化型癌と未分化型癌で異なるが腺扁平上皮癌のbiological behaviorも腺癌部分を分化型と未分化型に分けてみると胃の分化型腺癌，未分化型腺癌の性質を強く有していること[3]の2点より胃の腺扁平上皮癌は腺癌として発生し，発育の段階では扁平上皮化生をおこすという説が最も考えやすいと思います．そして，ほぼすべてが扁平上皮化生で置換されたものが胃の扁平上皮癌なのではないかと考えています．この点について著者のお考えをもう少し明確に示していただければと思います．

2）初回手術時のリンパ節転移巣の組織像は原発巣と同じですか？

本症例は術後9か月めに脳転移を認め切除術を受けており，その病理組織像は扁平上皮癌であったとされています．原発巣と脳転移巣の組織像は全く同じですか，あるいは何らかの差異がみられますか？　転移巣も5mm幅切片で調べていますか？　もしそうであれば腺癌成分の有無はいかがですか？

3）胃切除後の経過観察にSCC抗原を用いていますか？　もし用いていれば脳転移巣出現時の動向，現在(2年4か月使用時)の動向についてお教え下さい．

以上，①原発巣は真の扁平上皮癌か，②転移巣では組織像は異なってくるのか，③胃の扁平上皮癌でもSCC抗原は腫瘍マーカーとして有用かの3点についてお伺いいたします．

文　献

1）渡辺　章，梅原松水，梅原松臣ほか：脳転移を来した胃原発扁平上皮癌の1例．日消外会誌　30：1761—1765，1997
2）Mori M, Iwashita A, Enjoji M: Squamous cell carcinoma of the stomach: Report of three cases. Am J Gastroenterol 81：339—342，1986
3）Mori M, Iwashita A, Enjoji M: Adenosquamous carcinoma of the stomach-A clinicopathologic analysis of 28 cases. Cancer 57：333—339，1986